



二中だより

明 強 正

創立70周年記念 No.15

平成30年12月18日(火)

発行 八戸市立第二中学校

電話 22-2297

アイスホッケー部 県大会5連覇、全国大会へ

12月10日に始まった第69回青森県中学校体育大会冬季アイスホック競技大会で、本校アイスホッケー部は5連覇を達成し、東北大会、全国大会への出場権を獲得しました。

今シーズンも白鷗ライオンズ杯で優勝するなど、強豪校として全国大会出場は間違いのないだろうと思っていましたが、先月の八戸市中学校体育大会アイスホッケー競技大会では接戦が多く、優勝したものの全勝を逃すなど、各チームの力は僅差でした。このような状態から油断することなく県大会に入った本校は、準決勝の湊中学校戦を6対3、決勝の八戸合同戦を11対4で退け、どちらも一度もリードを許すことなく堂々とした戦いを見せ、悲願の5連覇を達成しました。今月22日から八戸市を会場に行われる東北大会や、1月24日から北海道の帯広市で行われる全国大会に大きな弾みとなる大会でした。

決勝には、約60人の生徒を含め保護者や教職員等多くの応援団が駆けつけました。これまで応援団として夏の部を応援してきたホッケー部を支えようと、選手団は声を張らして応援していました。選手にとって大きな力となったと思います。優勝の瞬間を分かち合うことができ、選手を囲んだ記念撮影に大いに盛り上がり、創立70周年に花を添える優勝となりました。

応援していただいた保護者の皆様、地域の皆様に心から感謝申し上げます。

今年度の学校評価について

本校では、「たくましい生徒の育成 ～得意を伸ばし苦手を克服～」を学校目標とし、下記の3項目を重点項目として教育活動を展開してきました。その達成状況を把握して次年度の教育計画に生かすために、毎年、生徒・保護者・教職員によるアンケートを実施しております。今年度もその集計結果がまとめたので、概要をお知らせします。

- 重点項目
- (1) 授業のユニバーサルデザインによる授業改善
 - (2) 壁を乗り越える経験を実感させる指導と適切な個別指導
 - (3) 家庭や地域から理解を得るための情報発信と個別面談の推進

アンケート結果と考察は裏面をご覧ください

※ A 十分達成、B おおむね達成、C あまり達成できない、D まったく達成できないの4段階

※表中の数字は、Aの割合(%)、ABはAとBを加えた(B以上の)割合(%)を表している

(1) 授業のユニバーサルデザインによる授業改善

観 点	生徒		保護者	教師
	A	AB	AB	AB
生徒は関心・意欲をもって授業に参加している	45	95	83	100
生徒は授業内容を理解している	30	89	70	94
生徒はわからないときは友達や先生に聞いて解決している	50	86	67	77
生徒は家庭学習を行っている	67	92	89	82

学習への取組については三者にばらつきがみられ、評価が分かれている。生徒はどの項目もB以上で8割を超えているが、A十分達成とした生徒の割合は低い傾向にあり、昨年度を少し下回った。B以上に満足せず生徒自身のA評価がさらに増えるよう授業改善を一層推進する必要がある。

(2) 壁を乗り越える経験を実感させる指導と適切な個別指導

観 点	生徒		保護者	教師
	A	AB	AB	AB
生徒はいじめをしていない、困っている仲間がいたら助けている	75	98	98	94
生徒はやりがいと責任を感じて諸活動に取り組んでいる	62	98	93	94
生徒は行事や諸活動を通して感動や達成感を感じている	66	95	93	100
生徒は友達のよさを発見し友情を深めている	66	95	95	94
生徒はやるべきことは、つらいときでもやりきっている	47	91	88	77

B以上ではほとんどが90%を超えており、全体としておおむね達成されたと考えられる。ただし、「やるべきことは、つらいときでも…」が三者ともに最も低く、Aとした生徒は半数に達していない。また、昨年に比べてAの割合が減った。学校目標「たくましい生徒の育成」の指標となる重要な項目なので、困難を乗り越える経験をさせ認め励ましていく取組は、今後も必要と思われる。

(3) 家庭・地域から理解を得るための情報発信と個別面談の推進

観 点	生徒		保護者	教師
	A	AB	AB	AB
学校は集会や通信で学校の様子を伝えている			88	94
学校は保護者と情報交換や相談を進んでいる			85	100

保護者では8割を超えているため全体としては良好であるが、保護者と教師に差がある。保護者との日常的な信頼関係の構築や、なんらかの困りごとを抱えた家庭への寄り添いや配慮が必要ではないかと思われる。

(4) 中学校区一貫指導の重点項目・その他

観 点	生徒		保護者	教師
	A	AB	AB	AB
生徒は感謝の心で気持ちよいあいさつをしている	55	94	84	82
生徒は奉仕活動（無言清掃）に取り組んでいる	51	92	82	71
生徒は先生や友達に自分の思いや考えを伝えている	45	86	82	88
生徒は先生や友達の意見を最後まで聞いている	64	96	87	82

おおむね良好ではあるものの、生徒及び教師の評価から奉仕活動が低い傾向が見られる。これは「無言清掃」を意識した表れと考えられ、学年によって差がある。「自分の思いや考えを伝える」という項目をAと評価した生徒が半数に達していないことも課題である。